



「医療費が心配で受診をがまんしている人はいませんか？」

無料低額診療事業のご案内

坂本民主診療所をはじめ民医連の診療所・病院の多くでは、経済的理由により適切な医療を受けることができない方々に対し、無料または低額で診療する「無料低額診療事業（無低診）」を行っています。保険証がない方、国民健康保険料や医療費の支払いをすると生活が困難な方など、生活保護基準のおおむね1.4倍までの低所得者を対象に、医療費の窓口負担を減額・免除します。入院が必要な場合は、県内や近県の無低診を実施している病院をご紹介します。利用にあたり、面接と必要書類の提出による審査があります。ご自身や周りにお医療費などでお困りの方がおられましたら診療所職員や健康友の会事務局までご相談ください。

「助け合い基金（薬代の補助）」への募金ご協力のお願い

無低診は調剤薬局が対象外のため、院外処方による薬代は減免の対象にはなりません。そこで当院では、しが健康友の会の「助け合い基金」のご協力により、無低診利用者の調剤薬局の一部負担金を補助しています。しかし、「助け合い基金」は募金で運営されており、現在は薬代を全額補助していますが、基金が減少し一部補助へ見直す必要に迫られています。低所得の方にとっては薬代の負担は大きく、薬代の補助の減額や廃止がされれば受診控えにつながりかねません。物価の高騰など大変なご時世ではありますが、みなさまの「助け合い基金」への募金のご協力をよろしくお願い致します。

「経済的事由による手遅れ死亡事例が45件」
2021年全日本民医連調査

全日本民医連加盟の医療機関で、2021年の一年間に経済的な理由で治療が遅れ、手遅れで死亡した事例が45件ありました。65歳未満（18件）のうち、非正規雇用が39%、無職は39%でした。保険料の滞納は17件、無保険・資格証明書の方が16件の一方、正規保険証や短期保険証の方も23件で、保険証を所持していても窓口負担などが理由で受診できない実態があります。受診時にはすでに全身状態が悪く、手術できないなど治療が困難な事例や治療の中断が目立ちました。全日本民医連では、①保険料と窓口負担の二重徴収をやめること、②10月からの75歳以上の医療費2割負担化の中止、③高すぎる国民健康保険料の引き下げなどを求めて日本政府に要請をしました。社会保障を充実させる請願署名へのご協力をよろしくお願いします。

★埜田まゆみ医師の退職にともなう12月以降の診療体制変更のお知らせ★

この度、福田暁子（ふくだあきこ）医師の採用が決まり、埜田まゆみ医師の後任として診療していただきます。埜田まゆみ医師は、定年退職後、非常勤として診療を継続されていましたが、2022年12月末で退職されることになりました。埜田医師の外来診療は11月29日（火）までとなります。11月1日（火）から福田医師が埜田医師とともに外来および訪問診療の引継ぎ・研修で患者様の診療にあたります。長年、埜田医師をかかりつけ医とされている患者様には大変ご迷惑をおかけ致しますが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

＜当院の予防接種についてのお知らせ＞

- 新型コロナウイルスの予防接種は10月31日（月）まで継続します。ご予約は天津市のコールセンターまたは予約サイトからのみ受け付けています。
- オミクロン株対応ワクチンの接種は、詳細が決まり次第ホームページや待合掲示でご案内します。
- インフルエンザ予防接種は11月1日（火）から12月28日（水）まで実施します。ご予約は受付中です。
- 新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種は安全確保のため実施しません。

8月の太陽光発電量 1,205kwh

CO2削減量… 608Kg
杉の木の年間吸収量 約43本分